～制御センターによる情報連携システム～

初めに

ID連携トラストフレームワークとは
(経済産業省が主催で研究・検討されている)

目的

インターネット上で、利用者のデータやサービスの受け渡しを行う企業群が、「利用者が、その相手を信用して情報利用を任せられる」状態であることを保証する枠組みのことである。

(参考)経済産業省「ID連携トラストフレームワーク」:http://www.meti.go.jp/policy/it_policy/id_renkei/

目的達成の為の要件

1　ユーザの本人確認が、正しく行われること

2　ID パスワードの管理の煩わしさから解放すること

3　公共　民間企業等の間で、情報連携が、安全に適切に行われること

上記要件をクリアすることにより、オンライン完結型社会を目指している

具体的な利用例

1　就職活動に於いて、大学の卒業証書やその他の資格証明書を企業に提供する際

2　公的証明書(納税証明書　所得証明書　不動産登記簿等)を企業側に提出する際

3　医療関係のカルテ等を病院間でやりとりする際等

※　**経済産業省主催の「ID連携トラストフレーム・ビジネスコンテスト」において、弊社の**「共通1-dayパスワード発行センタ構想」が、アイデア部門で奨励賞を受賞しました (2015年3月)

情報連携システムについて

背景

社会的背景

●オンラインでサービス提供を受ける場合でも、本人確認の為の証明書類を紙に頼っているケースが多い。

●事業者は、提出される本人確認書類の真偽を確認する手段が少ない。オンラインで即時確認ができない。
このため、サービス提供までに時間がかかり、利用者、事業者双方が機会損失をしている。

●オンライン完結社会の実現が望まれる。

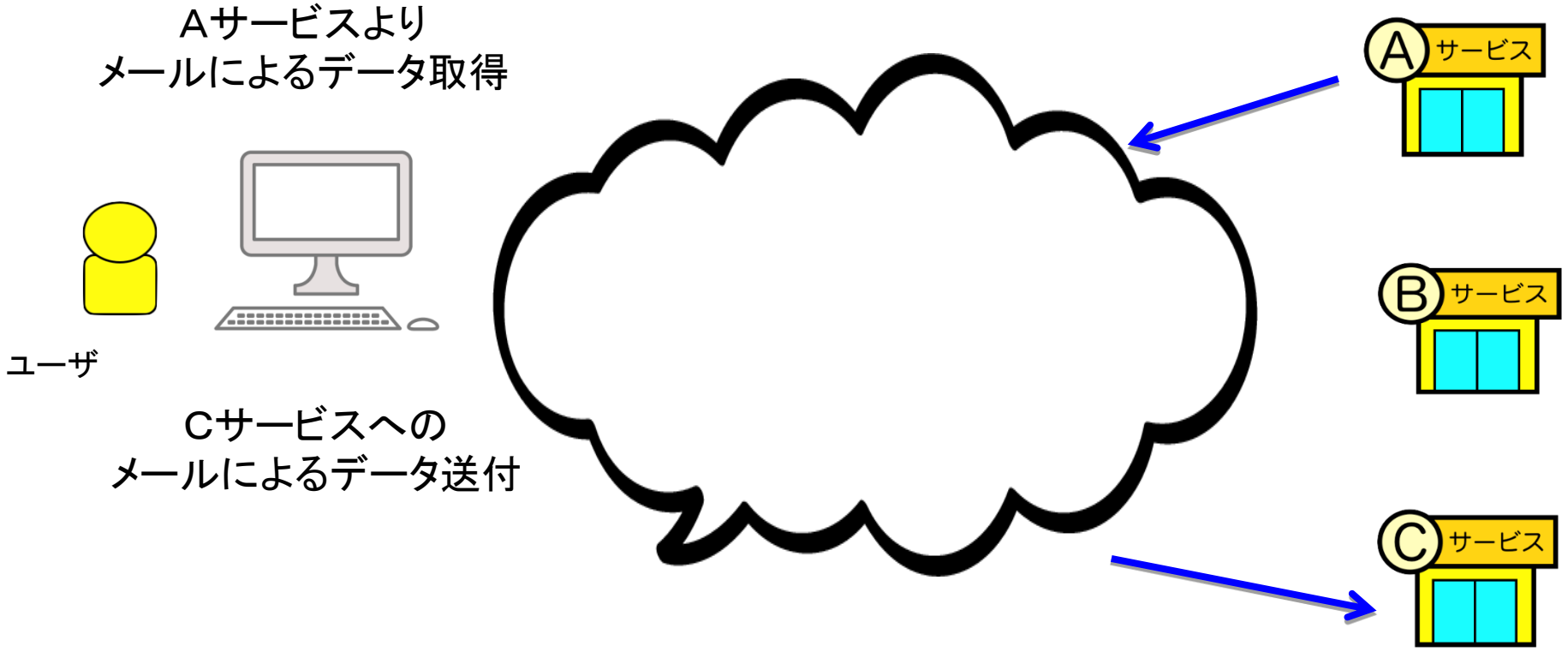
(参考)2015年9月17日JIPDEC資料:「公的個人認証サービスの民間開放に期待されること」
http://www.meti.go.jp/policy/it_policy/id_renkei/150917_3_JIPDEC.pdf

上記課題を解決して、安全性を確保しつつ、且つ、ユーザが関係するサービスシステム間の情報連携できる仕組みを着想致しました。

情報連携システムについて

従来の連絡方法

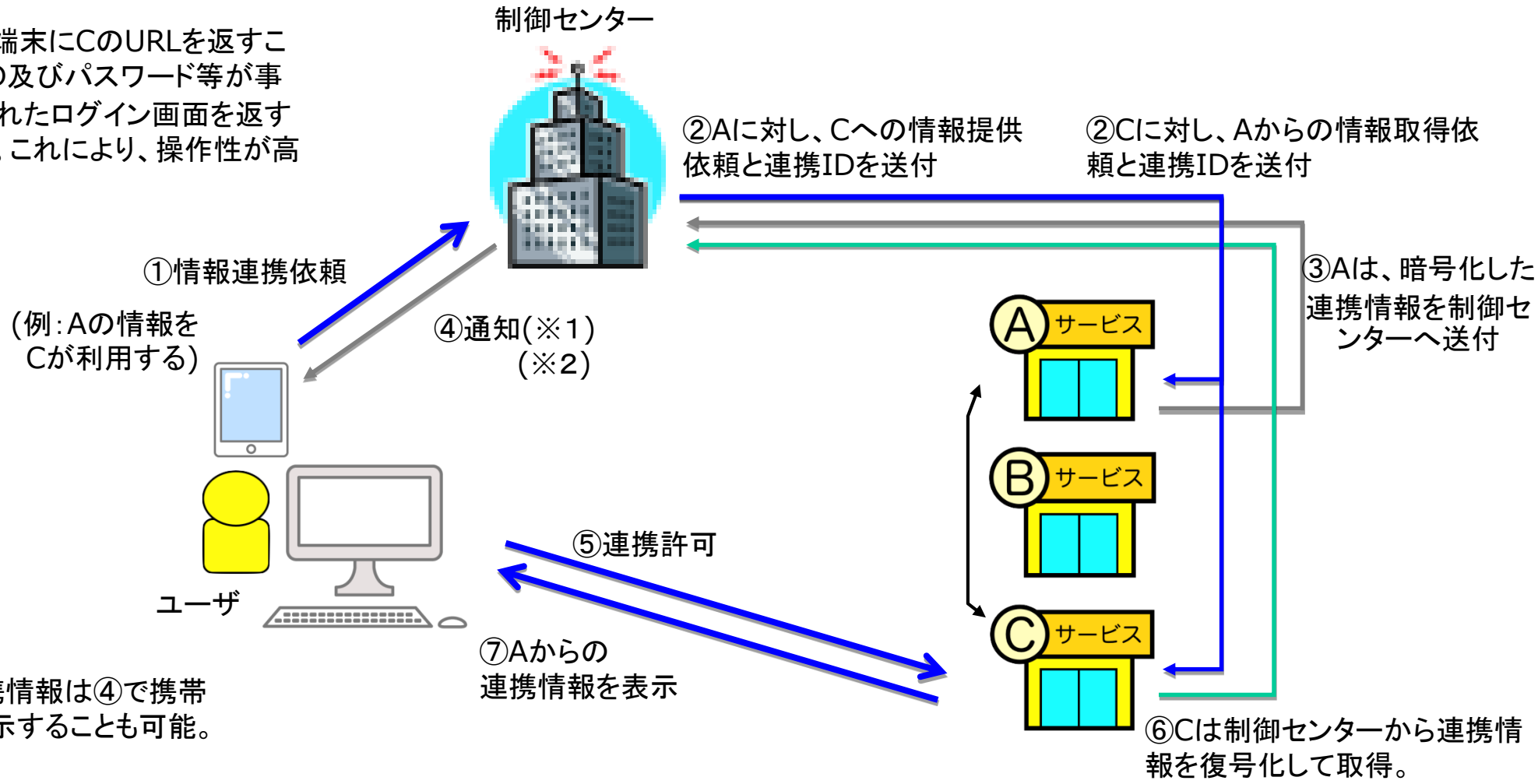
。



情報連携システムについて

本システムでの情報連携の流れ

(※1)携帯端末にCのURLを返すことにより、ID及びパスワード等が事前に入力されたログイン画面を返すことが可能。これにより、操作性が高くなる。



(※2)連携情報は④で携帯端末に表示することも可能。

情報連携システムについて

特徴

ユーザが主体

情報連携の対象先は、ユーザが指示して、且つ連携情報の確認後にサービス提供される。ユーザが知らないうちに情報が使われることはない。

連携情報の暗号化並びに証明書の発行

連携情報は、通常は暗号化されて、制御センターに送られる為、その中身を制御センターは、知ることができない。内容は、暗号化されているが、その情報元については、制御センターが、証明書を添付することができる。

複数の企業を対象

1対NとN対1のいずれの対応も可能である。例えば、ある企業のサービス提供に関して、複数の資格証明書を同時に取得することができる。

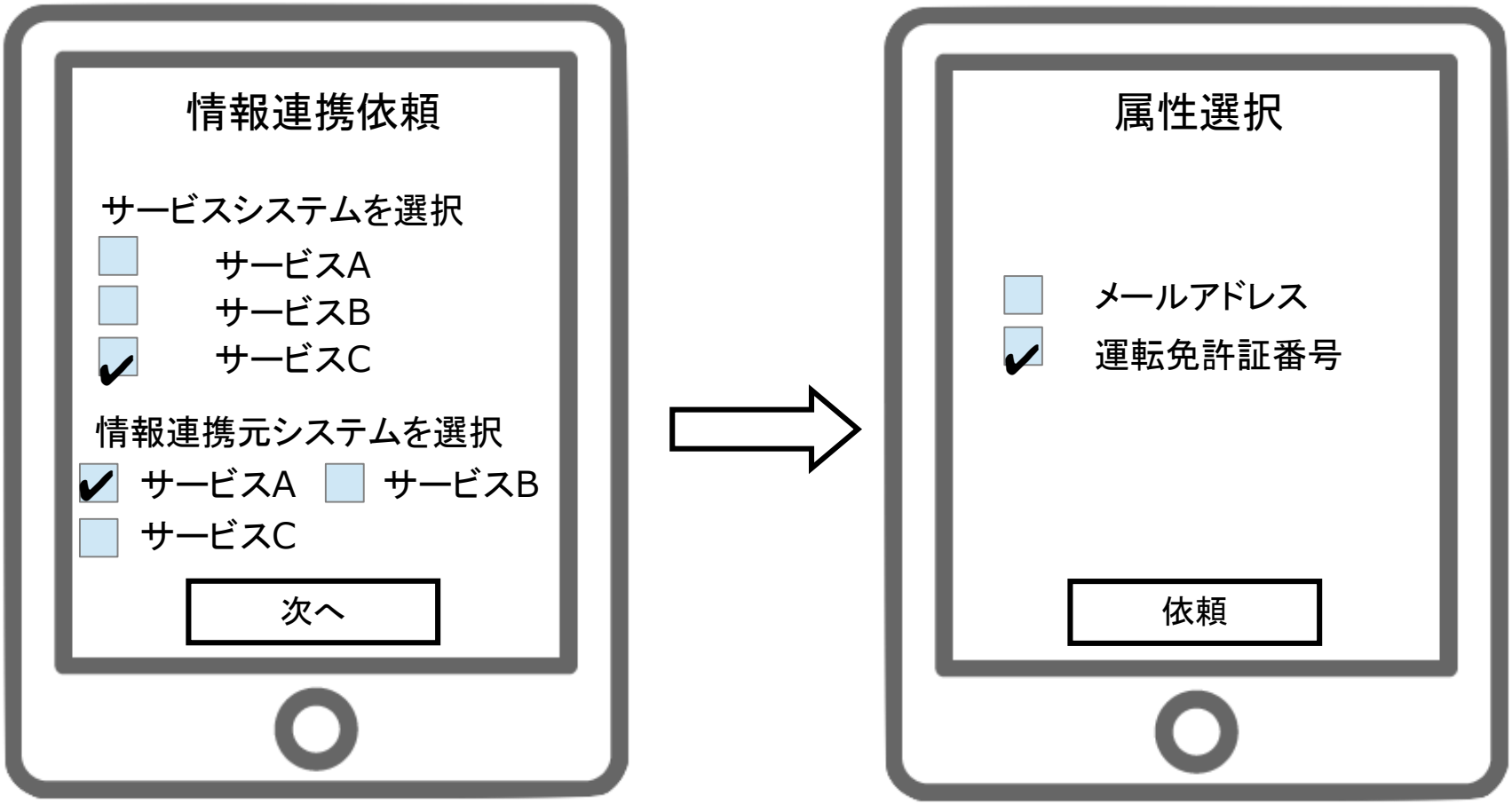
マイナンバー制度への活用

マイナンバー制度で検討されているマイナーポータルへの認証を安全に行い，且つ情報連携を可能にする。

※使用期限・使用回数は柔軟に設定できます。

情報連携システムについて

情報連携依頼時の携帯端末の画面遷移



情報連携システムについて

選択可能な属性の決め方

属性	サービスA			サービスB			サービスC		
	保有	提供可否	受入可否	保有	提供可否	受入可否	保有	提供可否	受入可否
ログインID	Y	N	N	Y	N	N	Y	N	N
名前	Y	Y	N	Y	N	N	Y	N	N
メール アドレス	Y	**Y**	N	Y	N	N	Y	Y	**Y**
運転免許証 番号	Y	**Y**	N	Y	N	N	N	-	**Y**
…	…	…	…	…	…	…	…	…	…

・本テーブルは制御サーバが保持
（携帯端末のアプリが保持しても可）
・保有"Y"として実際の値が入っていても可

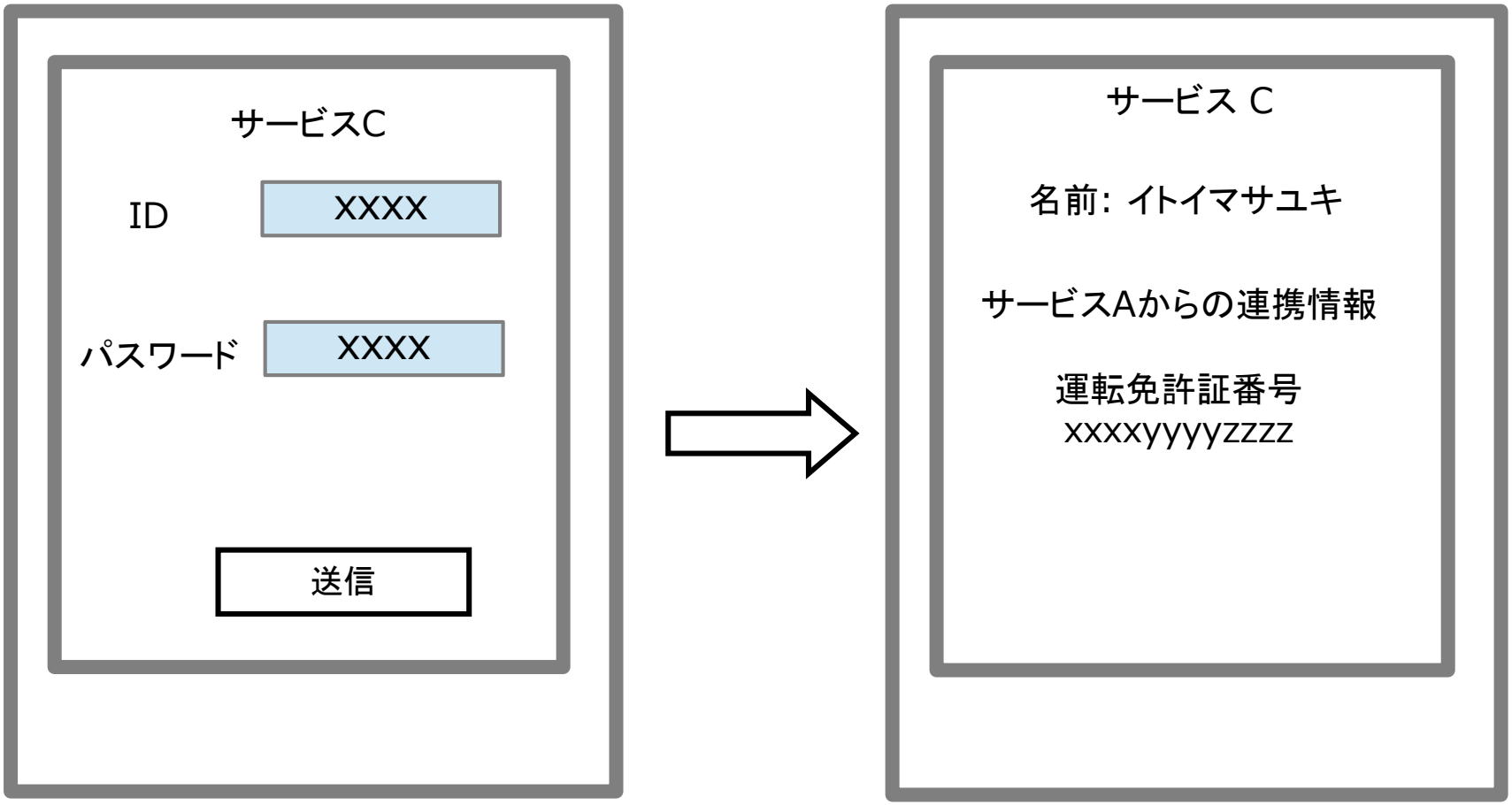
サービスA(連携元)が提供可(**Y**)、且つ、
サービスC(連携先)が受入可(**Y**)
＝ 選択可能な属性

情報連携システムについて

通知時の携帯端末の画面

情報連携システムについて

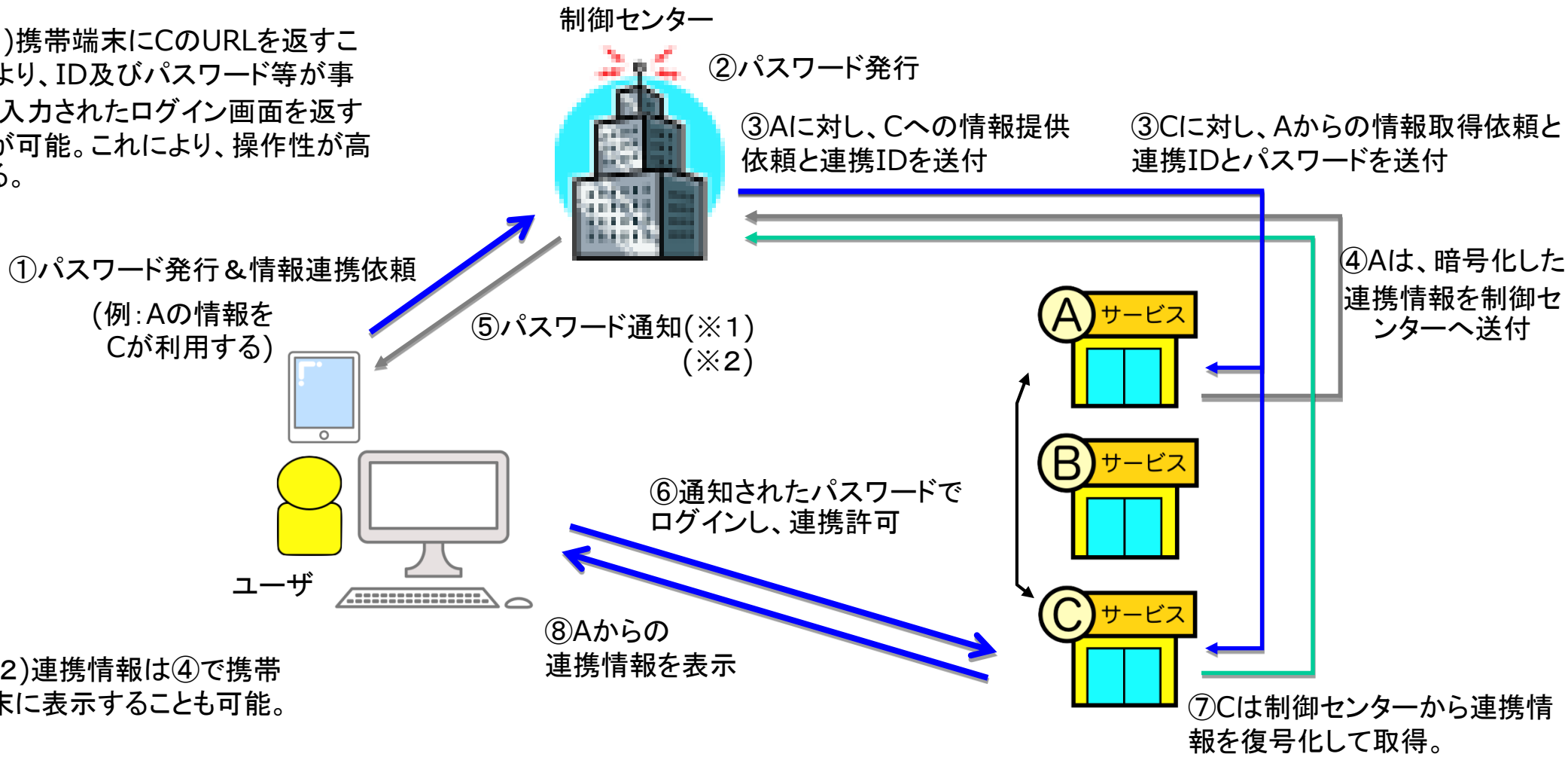
PC画面の遷移



情報連携システムについて

情報連携の流れ
（認証システムとの組合せ）

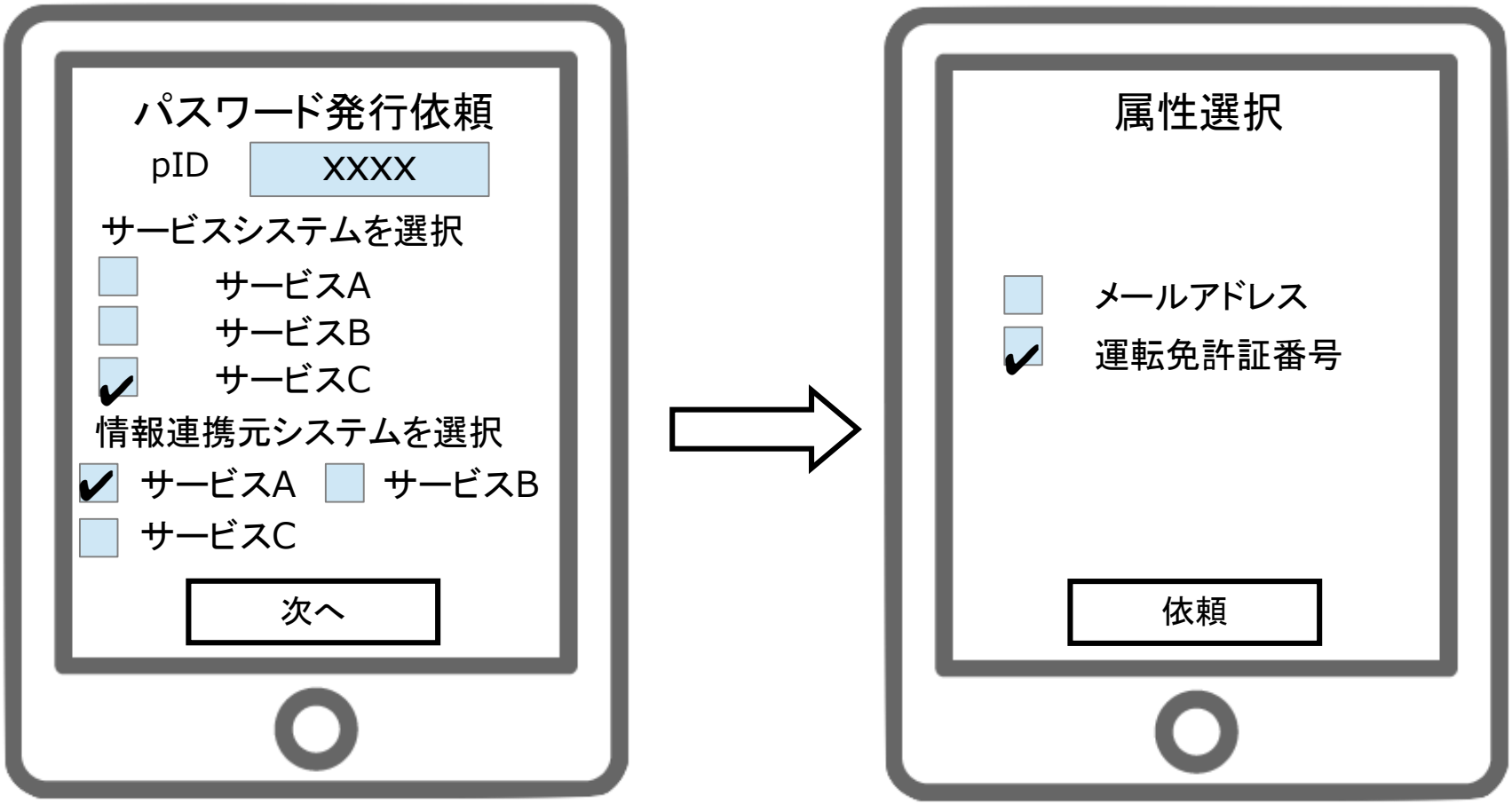
(※1)携帯端末にCのURLを返すことにより、ID及びパスワード等が事前に入力されたログイン画面を返すことが可能。これにより、操作性が高くなる。



(※2)連携情報は④で携帯端末に表示することも可能。

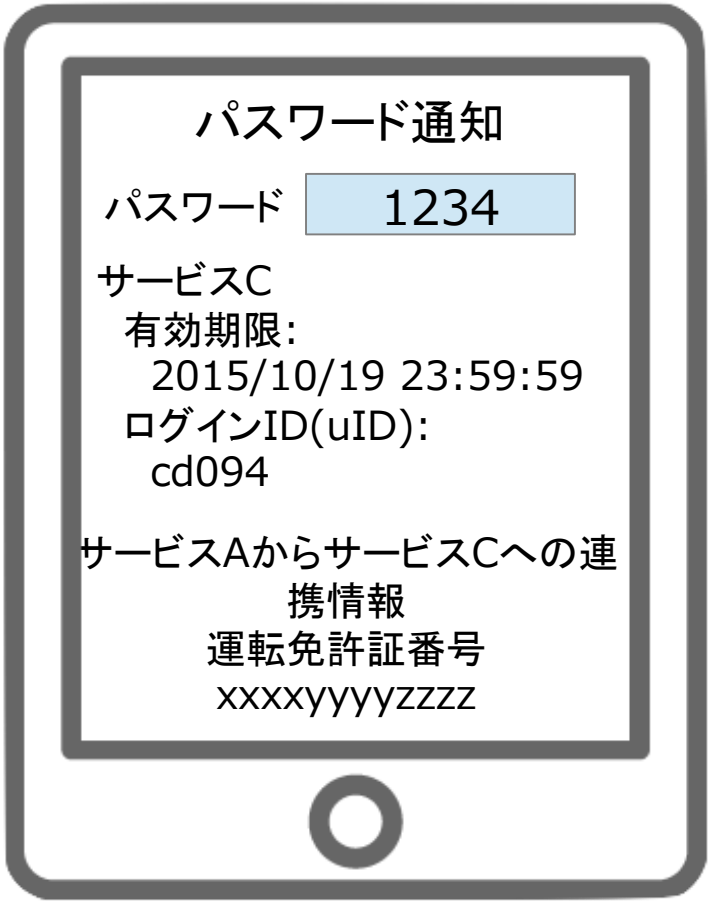
情報連携システムについて

パスワード発行＆情報連携依頼時の携帯端末の画面遷移
（認証システムとの組合せ）



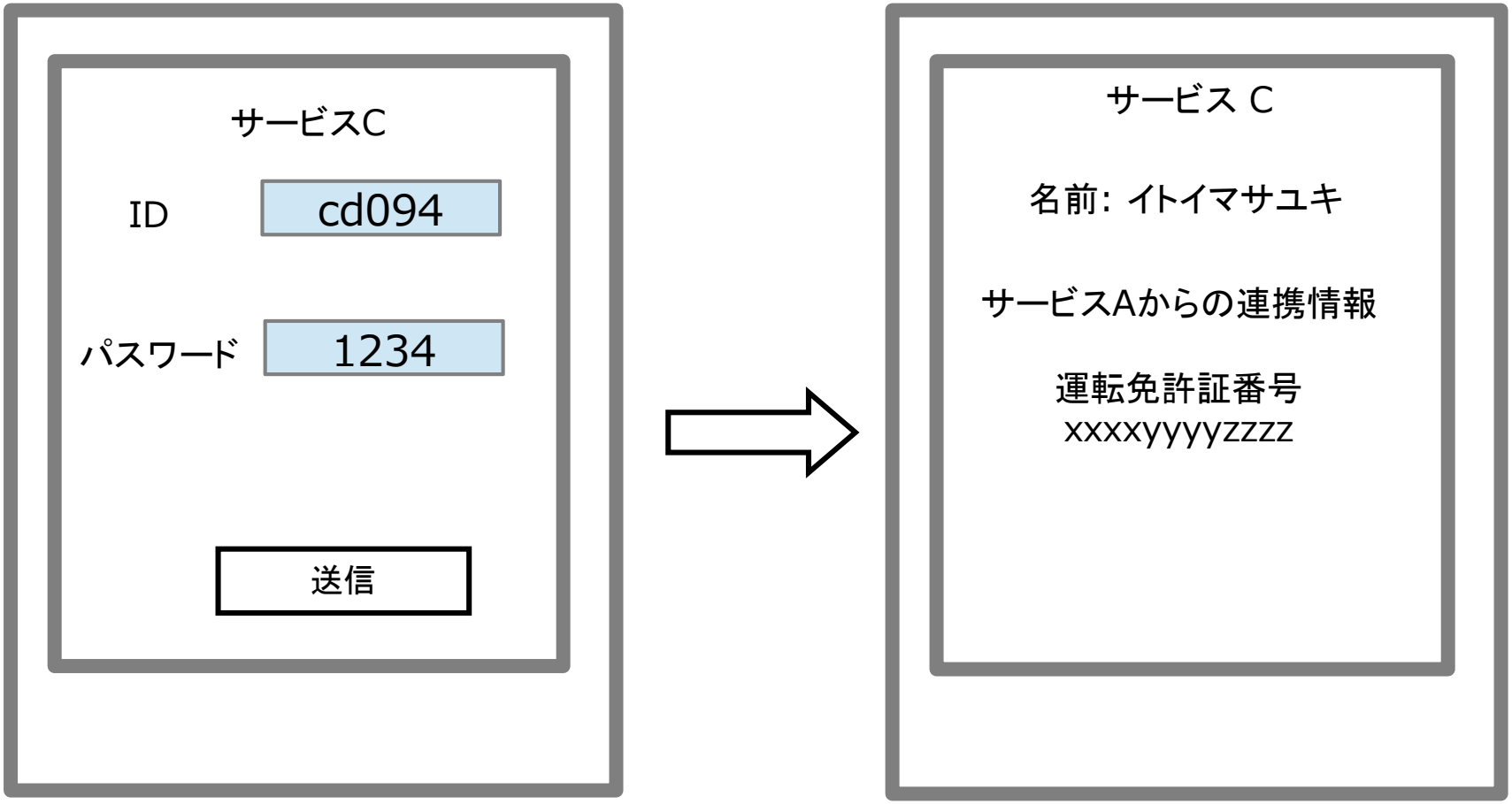
情報連携システムについて

パスワード通知時の携帯端末の画面
(認証システムとの組合せ)



情報連携システムについて

PC画面の遷移
(認証システムとの組合せ)



ご精読

ありがとうございました